

実施要領 様式11(第13条関係)
 【認知症対応型共同生活介護用】

評価結果公表票

作成日 平成20年3月4日

【評価実施概要】

事業所番号	270301575
法人名	有限会社永幸園
事業所名	ケア・サポートふたつ家
所在地	八戸市大字糠塚字大開20-32 (電話) 0178-73-8570
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成19年10月22日

【情報提供票より】(平成19年8月13日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成15年9月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	13人, 非常勤 2人, 常勤換算 6.5人

(2)建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	全階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	理美容代2,000円/回 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	900 円	

(4)利用者の概要(8月13日現在)

利用者人数	18名	男性	0名	女性	18名
要介護1	3名	要介護2	3名		
要介護3	8名	要介護4	4名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.9歳	最低	69歳	最高	94歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	於本病院、きむらクリニック、鹿内内科医院、山本歯科医院
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「誠実一人の尊厳が保たれる その人らしい暮らし」「信頼一穏やかでゆったりとした 自由で安らぎのある暮らし」「成長一自分らしさや誇りを保ち 自分でやれる喜びと達成感のある暮らし」という理念を掲げており、毎朝の唱和や会議等での話し合いを通して全職員への周知・徹底に努めている。また、理念のほかに毎月の個人目標をホーム内に掲示しており、自己評価を行いながら理念の実現に努めている。

町内会に加入したり、散歩時には挨拶を交わす等、開設時から地域との交流を図るよう努めており、時々地域の方が立ち寄ってくれる等の関係が築かれてきている。

買い物や海の見える公園に日常的に出かける等、利用者の気分転換を図るほか、墓参りや孫の行事に出かける等、個々の要望に合わせた外出支援もしている。外出時には一人ひとりの身体状況やその日の体調等に配慮し、車椅子を用意する等の配慮を行っている。

職員は、研修等を通じて身体拘束の弊害等について理解を深めており、拘束は行わないという姿勢で日々のケアを提供している。また、やむを得ず拘束を行わなければならない場合には、理由等を記録したり家族に説明して同意を得る体制を整えている。

【特に改善が求められる点】

地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会は持っているが、実際に制度を利用している方がいないこともあり、全職員が概要を理解するまでには至っていないので、定期的に勉強会を開催する等の取り組みに期待したい。

避難訓練を利用者と一緒に行う等の取り組みは行っているが、数日分の食料や飲料水、寒さをしのげる物品等を用意してはどうか。

終末期の対応について、医療機関等との連携を図りながら対応していくこととなっているが、指針等を整備し、それを基に利用者や家族、医療機関との意思統一を図っていくことに期待したい。

献立は栄養バランスや好み等に配慮して作成しているが、栄養士等の専門家からアドバイスをもらえるような体制とはなっていないので、保健所の栄養士や県の栄養士会などに働きかけて協力を得る等の体制を検討してはどうか。

【重点項目への取組状況】

【各領域の取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>利用者の権利と義務の明示や感染症マニュアルの作成等、前回の評価で助言のあった部分については改善計画書を作成して実践しており、ケアサービスの質の向上につなげている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価には全職員で取り組むことを方針としている。ホーム長等は評価の意義などを全職員に周知しており、自己評価は全職員で実施している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>地域の町内会長(民生委員)や老人会会長、利用者、家族等からなる運営推進会議を2ヶ月毎に開催している。委員に会議の意義や役割を理解してもらうほか、自己・外部評価の結果やその改善策等を報告し、意見や質問を聞く機会を設けている。委員から出された意見はサービス向上につなげていく体制が整えられている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>面会時や便り等を利用して、一人ひとりの暮らしぶりや受診状況等を家族に報告している。また、金銭管理状況は領収書を添付して定期的に報告している。重要事項説明書等にホーム内外の苦情受付窓口を明示したり、面会時には窓口を繰り返し伝えるほか、意見箱を設置しており、日頃から家族が何でも話せるよう工夫している。家族から出された意見は前向きに受け止め、職員間で話し合いを行って、今後のケアに反映させている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、住民の一員として回覧板を回すほか、地域の行事や活動に参加したり、ホーム行事への参加を呼びかける等、住民が気軽に立ち寄れるよう働きかけている。また、保育園や小学校との交流も図られており、小学校から車椅子を頂き、お返しとして利用者手作りの雑巾を送る等の関係も築かれている。利用者のプライバシーに配慮しながら、研修生や実習生、ボランティアの実習等を受け入れており、ホームの機能を地域に開放している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、住民の一員として回覧板を回すほか、地域の行事や活動に参加したり、ホーム行事への参加を呼びかける等、住民が気軽に立ち寄れるよう働きかけている。また、保育園や小学校との交流も図られており、小学校から車椅子を頂き、お返しとして利用者手作りの雑巾を送る等の関係も築かれている。利用者のプライバシーに配慮しながら、研修生や実習生、ボランティアの実習等を受け入れており、ホームの機能を地域に開放している。</p>

領域	取組状況
I 理念に基づく運営	<p>利用者が手書きした理念を額に入れてホーム内に掲示しており、職員は常に理念を念頭に置いて日々のケアを提供している。</p> <p>運営者は職員のレベルアップの必要性を認識しており、個々の力量等に応じた研修に職員を派遣するほか、職員の資格取得にも積極的である。</p> <p>また、同業者との交流・連携の必要性も理解しており、地域の同業者との交流や親睦の場を定期的に設け、研修会等を通じて情報交換や意見交換を行っている。職員は他ホームの見学交流を希望しており、現在検討中である。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>利用者が安心してサービスを開始できるよう、利用者の生活歴や心身状況等の把握に努めている。また、ホームを見学してもらったり、自宅を訪問し、利用者や家族の意向や思いを十分に聞くことを心がけている。</p> <p>利用者一人ひとりの日常生活での発見や出来事を共有する等、利用者の思いを共感し、理解するよう努めている。また、料理や後片付け、裁縫等の利用者が得意なことは手伝ってもらったり、利用者から教わりながら、利用者職員が共に支えあう関係を築いている。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>介護計画作成時には、利用者の状況を詳細に把握できるアセスメントを実施するほか、利用者や家族等の意見、希望等について情報収集を行っている。また、ケア会議で全職員の気づき等を出し合い、計画作成時に反映させている。</p> <p>今までの医療機関での受診を支援するほか、24時間体制で対応してもらえる複数の協力医療機関を確保している。また、訪問看護ステーションとの連携も図られており、重度化した場合のケアに関する指針の下、利用者や家族等との意思統一を図りながら対応する仕組みとなっている。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>職員は利用者の言動を急かすことなく、個々のペースを大切にしながら穏やかにゆったりと接している。</p> <p>献立は利用者の好みに配慮するほか、旬の食材を取り入れる等の配慮が行われている。また、食材の購入や調理、盛り付け、後片付け等は利用者職員が一緒に行ったり、職員も利用者と一緒に同じ食事を摂る等、食事を楽しめるような取組が行われている。</p> <p>共用空間には木製の家具を設置したり、居室には家族の写真や遺影、テレビ、目覚まし時計等の馴染みの物を持ち込んでもらう等、利用者が落ち着いた空間で暮らせるような取組や働きかけを行っている。</p>

評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者及び全職員は地域密着型サービスを理解している。「誠実」「信頼」「成長」を理念として掲げているが、地域密着型サービスの役割を反映するまでには至っていない。	○	「住み慣れた(馴染みのある)地域の中で安定した生活が出来るように支援していく」という方針が掲げられているので、それを理念に盛り込んでいってはどうか。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員で毎朝理念を唱和するほか、会議や日々の業務を通して常に話し合っており、職員は理念を意識しながら日々のケアサービスに反映させている。また、個人目標を毎月ホーム内に掲示しており、自己評価しながら理念の実現に向けて努力している。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内会に加入して回覧板を回したり、区民運動会や盆踊り等の行事に積極的に参加する等、開設当初から地域にホームを理解してもらえるよう働きかけている。また、散歩時には挨拶や会話を交わす等の取り組みにより、顔見知りが増えてきており、時々地域の方が立ち寄ってくれている。利用者のプライバシーに配慮した上で、近くの保育園や小学校との交流を図ったり、看護学生等の実習や老人会の訪問などを受け入れるほか、見学や相談にも対応し、ホームの機能を地域に還元している。プルタブを集めた小学校から車椅子を寄贈されたり、利用者手作りの雑巾をお返しとして贈る等の交流も図られている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価にはホーム長や管理者のみが関わるのではなく、全職員で取り組むことを方針としているため、ホーム長等は評価の意義などを全職員に周知し、自己評価は全職員で実施している。また、評価結果を基に職員で話し合っ改善計画を策定し、ケアサービスの質の向上につなげている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の中にホームに対する理解が深まっており、2ヶ月に1回開催している運営推進会議には町内会長や老人会会長、家族等が積極的に参加している。会議では、その意義や役割を理解してもらうほか、自己・外部評価の結果や改善策等を報告し、意見交換を行っており、委員から出された意見を今後のケアにつなげている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム長が定期的に市担当課に出向いており、運営推進会議への参加呼びかけを行っている。また、パンフレットを配布したり情報交換を行うほか、疑問点について相談する等、行政との連携が図られている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修への参加やその報告等を通して、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学習する機会を持ったが、実際に制度を利用する方がいないこともあり、全職員が概要を理解するまでには至っていない。	○	情報収集や定期的な勉強会の開催等、制度の概要について全職員が理解を深め、必要に応じて利用者や家族に情報提供できる体制作りに期待したい。
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部・外部研修等を通して全職員が虐待について理解している。管理者と職員は、申し送りや会議等で虐待のないケアについて話し合うほか、管理者が職員の日々のケアの提供場면을観察する等、虐待を未然に防ぐよう努めている。しかし、虐待を発見した場合の取り決めを作成するまでには至っていない。	○	ホーム長、管理者、職員で話し合いを行い、虐待を発見した場合の報告の流れや対応方法等に関する取り決めを作成してはどうか。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、ホームの理念や取り組み等について利用者や家族に十分説明するとともに、疑問や不安等を引き出し、同意を得た上で契約を結んでいる。また、契約改訂時や退居時にも十分な説明を行って同意を得ており、退居時には退居先の情報提供等の支援も行っている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時や便り等を利用して、一人ひとりの暮らしぶりや健康状態、受診状況、職員の異動等を定期的に家族に報告している。また、状況変化等があった時は随時伝えている。金銭管理状況は出納簿に記録しており、領収書を添付して定期的に報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の訪問時には声がけする等、話しやすい雰囲気作りに努めるとともに、何でも話してもらいたい旨を家族に伝えている。重要事項説明書や玄関にはホーム内外の苦情受付窓口を明示したり、玄関に意見箱を設置する等の取り組みを行っており、家族から苦情や意見が出された時には会議等で検討し、運営に反映させている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者や管理者は、職員の交代による利用者への影響を理解している。配置換えを行う場合は引継ぎを十分に行ったり、新人職員を配置する際には利用者や家族に説明する等、利用者へのダメージを最小限にするよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は研修への参加を積極的に促す等、職員のスキルアップの必要性を認識しており、勤務調整を行った上で、個々の力量やレベルに応じた研修に職員を派遣している。受講後は報告書を作成して会議等で全職員に周知する等の取り組みは行っているが、年間の研修計画を作成するまでには至っていない。	○	内部・外部研修の年間計画を作成したいと意欲的なので、早期の実現に期待したい。作成の際は、これまで開催された研修の傾向や、職員の受講歴、希望等に配慮してはどうか。
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、同業者との交流や連携の必要性を認識しており、以前から近隣のホームとの交流を図っている。地区グループホーム協会に加盟し、研修や親睦会等の場を活用して、定期的に他事業者との意見交換等を行っている。また、職員は他ホームの見学交流を希望しているため、検討中である。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心してサービスを開始できるようホームを見学してもらったり、自宅を訪問して利用者や家族の意向や思いを十分に聞く等、信頼関係を築くよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人ひとりの日常生活での発見や出来事を共有する等、利用者の思いに共感し、理解するよう努めている。また、料理や後片付け、裁縫等の利用者が得意なことには力を発揮してもらおう場面作りを行っており、利用者と職員が支え合って生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者の表情や言葉から個々の思いや意向を把握するよう努めている。また、意向が十分に把握できない時は全職員で気づき等を話し合ったり、必要に応じて家族等から情報収集を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時には、利用者の身体状況や生活背景等に関する詳細なアセスメントを実施するほか、利用者や家族の意見・希望について情報収集を行っている。また、ケア会議で全職員の気づきや意見を出し合い、計画作成時に反映させており、個別具体的な内容となっている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間を明示しており、3ヶ月に1回の見直しを行っている。また、家族の話を引き出す姿勢を心がけており、家族の要望の変化や利用者の状態変化等があった時には、実施期間に関わらず、随時の見直しを行っている。見直しを行う時は再アセスメントを行っており、現状に即した計画作成に努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問看護ステーションの協力により、医療連携体制を整えている。また、理容院や通院、買い物等の外出支援も行っており、利用者や家族の要望に応じて柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者がこれまでかかってきた医療機関での受診を支援している。受診状況は家族に定期的に報告しており、情報を共有している。また、24時間体制で対応してもらえる複数の協力医療機関や、訪問看護ステーションとの連携も図られている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合のケアに関する指針を定めており、契約時に利用者や家族に説明し、同意を得ている。また、医療機関や訪問看護ステーションとの連携が図られており、状況変化時等は利用者や家族を含めて随時話し合うこととなっている。終末期に関しても医療機関等との連携を図りながら対応していくこととなっているが、具体的な指針が明文化されていない。	○	重度化した場合の対応と同じように、終末期のケアについても指針を定め、それを基に利用者や家族、医療機関との意思統一を図っていくことに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は穏やかな声でゆったりと対応するほか、利用者を混乱させることのないよう心がけて接している。また、研修等で個人情報保護法について理解を深めており、個人情報は利用者や訪問者の目に付かない場所に保管する等の対応を行っている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者の言動を急かすことなく、個々のペースを大切にゆったりと接している。また、散歩や食事、入浴、昼寝、起床時間等、その日の心身の状況に配慮し、柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握しており、苦手な食材がある時には代替りのメニューを提供したり、旬の食材を使用する等の配慮が行われている。調理や盛り付け、後片付け等は利用者と一緒にしたり、職員も利用者と同じテーブルに座って一緒に食事するなど、食べこぼし等へのサポートを行いながら、会話を楽しんで食事を摂っている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は2日に1回となっているが、利用者の状況や希望に応じて入浴時間を決めている。入浴時には職員同士がお互いに声をかけ合いながら、さりげない見守り等を行っており、安全と羞恥心に配慮しながら適切な支援を行っている。また、入浴を拒否する利用者には、声がけのタイミングを図ったり時間をずらす等、無理強いすることなく入浴を促している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や希望、力量等を把握しており、個々に合わせて調理や後片付け、裁縫、亀の世話等の役割や楽しみごとを促している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や海見える公園には日常的に出かけており、利用者の気分転換を図っている。また、自宅やお墓参り、孫の行事に出かける等、個々の要望に合わせた外出支援も行っている。外出時には一人ひとりの身体状況やその日の体調等に応じて車椅子やリフトつき車を使用する等の配慮が行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員は、研修等を通じて身体拘束の内容や弊害について理解を深めており、拘束は行わないという姿勢で日々のケアを実践している。また、やむを得ず拘束を行わなければならない場合は、理由等を記録に残したり、家族に説明して同意を得る等の体制が整備されている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や居室等、利用者が日常的に出入りする場所には鍵をかけておらず、やむを得ず施錠する場合には家族の同意を得る体制となっている。外出傾向を察知できるよう、玄関には音の出る装置を付けており、察知した時はさりげない声かけや見守り等を行っているが、無断外出時に近隣からの協力が得られるような働きかけを行うまでには至っていない。	○	散歩や行事等を通じて住民や保育園との交流が深まっているので、利用者の無断外出があった際には見守りや声かけ、連絡等の協力が得られるような働きかけを行うことに期待したい。
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルを整備しており、夜間を想定した訓練も含めて、毎月末に利用者と一緒に避難訓練を行っている。災害時には消防署や警察署の理解・協力が得られるよう体制を整備しているが、食料や飲料水等の備蓄品を用意するまでには至っていない。	○	数日分の食料や飲料水、寒さをしのげる物品等を用意してはどうか。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の希望を取り入れながら、バランスに配慮した献立を作成している。また、食事や水分の摂取量を把握し、記録している。献立作成の際には栄養バランスに配慮しているが、栄養士等の専門家から指導・助言を得る体制とはなっていない。	○	保健所の栄養士や県の栄養士会などに働きかける等、定期的に献立に関する専門的なアドバイスを受ける体制を整備してはどうか。
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成しており、訪問看護師や関連機関から最新情報を得た時は随時の見直しを行っている。また、内部研修を開催したり、感染症流行時に学習する等、感染症に関する理解を深めている。感染症に関する情報は利用者や家族等に周知しており、家族の同意を得てインフルエンザの予防接種を行う等の対応を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員のたてる物音や声、音楽等の音量は適切で、日射しの強さや明るさも適当であり、落ち着いて過ごせる空間となっている。共用空間には、木製のテーブルや椅子、ゆったりとしたソファ等が設置されているほか、装飾品や亀と魚の水槽、植物等が置かれ、家庭的であるが、季節感を感じることができる空間作りを行うまでには至っていない。	○	季節の花を飾ったり、季節の行事の装飾品を手作りする等の工夫を検討することに期待したい。
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの品物を持ち込んでもらうよう積極的に家族に働きかけており、家族の写真や遺影、テレビ、日用品、目覚まし時計等が持ち込まれている。また、利用者の状況に合わせて、手作りの日めくりカレンダーや連絡のためのボード、花台を設置する等、その人らしい居室となっている。		

※ は、重点項目。